

Hello

we are NVLU

また、この場所で。





意外と

こだわりがたくさん!?

- ・節電、節水がすごい。徹底している!
- ・綺麗好きで整理整頓のマイルールがきつとある!
(ある学生が本棚の本を取ったときに向きが変わってしまった
こけしをひっそりと元に戻していた...)
- ・4本足の動物は食べない!なぜかは不明...
- ・1杯目は絶対ビール!芋焼酎のお湯割りが好き。
- ・蕎麦も好き。
- ・面倒見が良く、試験期間は教授室の空いている机を貸してくれる。
- ・猫の話をしたら最後...絶対NG×

或る学生
(獣医臨床繁殖学室員)
に聞きました!

河上教授
詳しくはP4へ

意外と

多趣味!?

- ・ドールハウス、料理、折り紙が趣味。
- ・お菓子作りが得意で、自宅で作って研究室に何度も持ってきてくれた。それに感化された学生の間でお菓子作りが流行ったことも!
- ・旅行が趣味。退職後はキャンピングカーで日本全国を巡る旅に出かけたらしい。
- ・お酒は「飲まない」。飲むと決めたら...!?
- ・考古学にかなり興味を持っており、遺跡の発掘に参加したことがあるらしい。獣医でなければ考古学者になりたかったとか?

或る本学教員に
聞きました!



植田教授
詳しくはP5へ

意外と

馬には乗らない!?

- ・ラーメン大好き!
(紹介してくれたお店のラーメンはホントに美味しかった)
- ・馬術部ファイルを作っている!
- ・馬術の部員紹介をよく見て覚えてくれている!
- ・「大会がんばってね」など声をかけてくれる
- ・忙しい合間を縫って馬術部に顔を出してくれる!
- ・困っていたら助けてくれる!カッコイイ!
(馬が疝痛になった時、担当の獣医さんが来られず急遽早朝に診てくれた!)

或る学生(馬術部員)に
聞きました!

左向教授
詳しくはP6へ

でも、馬に乗っている姿は見たことない!むしろ見せないのか!?



意外と

〇〇先生って こんな人?!

今年定年退職された5名の先生。その先生と関りの深い方々に、先生のことを聞いてみました!



意外と

飲めない甘党!?

- ・下戸である(誰でも知っている)が、ビールをコップ1杯くらいは飲めるようになりました!
- ・甘党(誰でも知っている)!
- ・和菓子から洋菓子まで幅広く、いろんなお店の情報を知っている。
- ・キティちゃん柄のネクタイを持っている!
お茶目な奥様が買ってきたのを、最初は気づかずに締めていた!
が、気付いた後でも締めていた(笑)!

或る
本学出身元教員
に聞きました!

常に自分のことより、周りのこと、学生のこと、大学の将来のこと、畜産の未来のことを考え、行動してきた先生。これからはご自身と奥様を第一に、のんびりと生活を楽しんでください!

吉田教授
詳しくはP7へ

或る学生
(動物栄養学室員)
に聞きました!

意外と

絵文字が好き!?

- ・卒論要旨の提出間近のある日、研究室のテーブルに家で栽培したみかんをドーンと置いて差し入れてくれました!
- ・チョコちゃんが好き?
- ・クマの絵文字を頻繁に利用する!
- ・研究室内の学生室のノートを見て、たまに書き込みをしてくれる!
- ・ホワイトボードへの板書はいつも真ん中から書く!



みかんは甘くて、
おいしかったとか!
学生が描いた顔もキュート★

時田准教授
詳しくはP8へ



定年退職者メッセージ 刻んだ時を振り返る…

これまでニチジュウの教育活動に尽くされた教員の皆様をご紹介します。
教員生活を振り返っていただきました。長い間ニチジュウを支えてくださり、ありがとうございました！

—先生は学科長、そして学部長も務められていましたね。

はい。学科長になりたての時、第三者評価とか教育評価とかあったんです。その点は大変だったかなと思います。

—教育改革の波がドバーっときてしまいましたね。

そうなんです。学部長になった年から評価が始まってしまいました。

—終盤は学科長、学部長としてご活躍され、そして先日、最終講義がありました。

1月16日の獣医臨床繁殖学Ⅰ(獣医学科4年次)が最後の講義でした。講義室で「終わりにします」と言ったら、研究室の学生が花束を用意してくれていました。

—素敵ですね。研究室では毎年恒例でお花見をやっていると伺いました。

研究室員全員参加で新4年生が主体となって動き、学生同士が受け継いでやってくれています。

—どんなことをするのですか？

新4年生が一芸を披露します。全員必須で

す。流行りの歌や私が知っているような歌も歌ってくれます。周囲にいるおじいさんおばあさんも楽しんでます。

—一番の思い出に子犬を挙げていますが…

この子たちは2018年に生まれた雑種で、生後2か月頃の写真です。繁殖の研究室なので、犬の妊娠出産、育て方教育のために時々生まれています。この子たちは思いがけず大きくなってしまいました。秋田犬より大きいです。

—定年退職後のご予定は？

小動物の繁殖学の知識と技術をいかせる、都内にある研究施設に週3日ほど勤務させていただく予定です。

—プライベートはどうですか？

することもないから旅行はするでしょうね。出雲にいったことないので行ってみたいです。あと温泉もありますしね。

—最後に学生や教職員にメッセージをお願いします！

私の座右の銘は「継続は力なり」。

努力の積み重ねが、良い成果をもたらしてくれます。

—ありがとうございました！

思い出 BEST3

1  ぼくたちこんなに大きくなったよ！
かわいい子犬たちに囲まれ、至福のひととき。

2  小金井公園でのお花見が恒例で楽しい思い出。

3  教員最後の講義。学生たちから花束をいただき、感無量の思い出。

【略歴】
1978年3月(23歳) 日本獣医畜産大学獣医畜産学部獣医学科 卒業
1980年3月(25歳) 日本獣医畜産大学大学院獣医学研究科 修了
1980年4月(25歳) 日本獣医畜産大学 助手
1988年4月(33歳) 日本獣医畜産大学 専任講師
1991年6月(36歳) カリフォルニア大学デビス校に留学(1年間)
1993年4月(38歳) 日本獣医畜産大学 助教授
2002年4月(47歳) 日本獣医畜産大学 教授
2011年4月(56歳) 日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科長 就任(3年間)
2015年4月(60歳) 日本獣医生命科学大学獣医学部部長 就任(4年間)
2020年3月(65歳) 定年退職
※合唱団出身という理由で赤とんぼの顧問をやっていたが、いつからは不明



河上 栄一 Eichi KAWAKAMI
獣医学部獣医学科 獣医臨床繁殖学研究室 教授

—先生は、本学出身だったんですね。学生の頃も公衆衛生学に所属されていたのですか？

そう!だから、東大(大学院)でも本当は公衆衛生があれば入りたかったんだけど、なかったから薬理学に所属したの。

—助手で本学にお戻りになってからはまた公衆衛生学に所属されたんでしょうか？

そうよー。ずっとここ(公衆衛生)。振り返ってみれば40年、トントントンとはいかなかったし、いろんなことがありました。教室の教員が一時私一人の時もありました。それで助けてくれたのが、当時研究生だった小林真理子先生!(*植田先生は小林真理子先生を旧姓で呼んでいらっしゃいます。)

—小林真理子先生は、植田先生が一番大変な時に助けてくれていたんですね!

本当に助かった。あの時はあの先生がいてくれて…。私一人ではとても無理だった。

—先生の思い出第1位は、富士アニマルファームですか？

昔、臨床を中心に牧場実習が始まって、若い先生が中心になって運営してたの。宮城県の小野田牧場から山梨県の上九一色村(現在の富士河口湖町)になって武蔵境からも近くなった。それにすごくきれいになったしね。何よりこの頃は皆若かった!

—第2位は「極寒のオーストラリア実習…」

日本は夏だし、前情報としては「沖縄の冬程度だからコートは要らない」ということだったのに、とにかく海辺が寒くてケジラを見るどころではなかった(笑)

—そして2年間の留学ですね!

留学中は留学生会館のようなところで過ごし、10人集まれば10か国出身が違う

【略歴】
1979年3月(24歳) 日本獣医畜産大学獣医畜産学部獣医学科 卒業
1984年3月(29歳) 東京大学大学院農学系研究科獣医学専門課程 修了
1984年4月(29歳) 日本獣医畜産大学 助手
1987年4月(32歳) 日本獣医畜産大学 講師
1990年3月(34歳) University of London, King's College, Biomedical Division, Physiology Group (Post:Academic) (1992年2月まで)
1997年9月(42歳) 日本獣医畜産大学 助教授
2006年9月(52歳) 日本獣医生命科学大学 教授
2020年3月(65歳) 定年退職
※いつの間にか、サザン(テニスサークル)顧問

植田 富貴子 Fukiko UEDA
獣医学部獣医学科 獣医公衆衛生学研究室 教授

ようなところだったので、たくさんの人に出会えました。

夏休みは1か月の休みを取って、ヨーロッパを横断しました。もちろん治安の悪いところは除いて。

—定年退職後のご予定は？

世界中を気の向くままに旅行して歩きたいです。行ってないところなんてたくさんあるもの(笑)

日本?日本はね、富山辺りには一回も行ったことないから行きたい!石川県は新幹線できたから学会で行ったけど行っただけだから、あの辺(北陸)に行きたい!

—最後に、学生や教職員にメッセージをお願いします。

助手として勤めてから36年、学部の4年を入れるとちょうど40年、長い間大変お世話になりました。

ありがとうございました。

—ありがとうございました!

思い出 BEST3

1  付属牧場が富士に移り、「キレイ」と喜ぶひとコマ。

2  日本は夏なのに、極寒だったオーストラリア実習での海辺。

3  留学中、教授と電車にて、たくまんの楽しい人たちに会うことができました。



【略歴】
 1980年 3月(25歳) 日本獣医畜産大学卒業—獣医内科学教室 副手
 1982年 4月(27歳) 日本獣医畜産大学獣医畜産学部 獣医内科学教室 助手
 1990年 4月(35歳) 日本獣医畜産大学獣医畜産学部 獣医内科学教室 講師
 1994年 4月(39歳) オハイオ州立大学留学(1991年3月まで)
 1994年 4月(39歳) 日本獣医畜産大学獣医畜産学部 獣医内科学教室 助教授
 2006年10月(52歳) 日本獣医生命科学大学獣医学部 獣医保健看護学 教授
 2008年 7月(54歳) 日本比較臨床医学会 学会賞
 2008年11月(54歳) 日本動物臨床医学会 学会アワード
 2015年 7月(61歳) 一般社団法人日本ペット栄養学会 会長
 2016年 2月(61歳) 日本獣医内科学会 会長
 2017年 9月(62歳) 全国動物保健看護系大学協会 会長
 2019年 3月(64歳) 日本糖尿病動物肥満学会 名誉会員
 2020年 3月(65歳) 定年退職

左向 敏紀 Toshinori SAKO
 獣医学部獣医保健看護学科
 獣医保健看護学臨床部門 教授

—先生はもともとは獣医学科で産業動物の研究をされていたのですね。

教員になっての初期10年間ほどは馬、牛の研究・教育に当たり、獣医保健看護学科に移るまでは産業動物の教育研究に没頭しました。恩師である本好茂一教授が日本中央競馬会(JRA)の研究費を長く受けていて、馬の獣医師を目指していた私にとって、北海道で憧れの種牡馬達に会い、サンプリング、研究が出来たのは夢のような時間でした。馬好きから、馬術部の顧問をやらせてもらっていると思うんだけど…

—その他獣医学科での思い出はありますか？

小山秀一教授(現 獣医学部長)とともに、関東圏内外から多くの症例を持ち込んで学生に提供し、臨床実習を実施、推進しました。自分の勉強、研究材料にもなりましたね。年間100~200頭の病畜(牛・豚・馬)を診ることが出来ました。また、

宮城県農業共済組合(NOSAI宮城)や山形県農業共済組合(NOSAI山形)との臨床実習の構築と実施は、苦労でもあり素晴らしい勉強の機会、そして思い出です。実習以外でも共同研究を行いました。出逢った獣医師との交流は今でも続いていますし、一生の宝です。

—所属されていた獣医内科学研究室はどうでしたか？

学生時代を合わせて約28年間お世話になりました。獣医内科学研究室には「ぎんなん会」という、OB・OGの会があって、非常に仲が良いです。毎年、「東北ぎんなん会」「九州ぎんなん会」そして「全国ぎんなん会」とあちこちで開催され、卒業生と交流を深めました。全国各地の観光地を巡った思い出と、多くの卒業生との交流は人生の宝です。

—そして獣医保健看護学科が設置されたから、長い間学科をリードされてきました。

獣医保健看護学臨床部門に移って

から若いスタッフ、多くの大学院生と、糖尿病を中心とした内分泌の研究がたくさんできました。活力ある熱心な大学院生を多く指導できる立場となり、多くの研究アイデアを考え議論することができました。学会にも多く参加、発表し、充実した研究教育の時間でした。

—研究に時間を費やすことができるようになったのですね。

今後も大学の教育を少しでもサポートして、若い大学教員達に、研究に没頭する時間を作ってあげたいと思います。私より優秀な教員や学生達が大学を盛り上げて行くところを眺めてたいです。

—最後に、メッセージをお願いします！

歴史も、立地も、ソフト(教員)も、学生も素晴らしい整った大学である、ニチジュウでは、他大学では出来ない特徴ある教育が出来ると考えています。「この点はニチジュウがすごいよね」、「さすがニチジュウ!」と言われる大学を作り続けてください。この素晴らしい大学で教育を受けたことに自信を持ち、アピールして欲しいと思います。

—ありがとうございました！



—先生は本学ご卒業後、すぐに助手として着任されたんですね。

当時は「家畜管理・育種学教室」だった。それが1993年には「家畜育種・繁殖学教室」となって、2006年に今の「動物遺伝育種学教室」と「動物生殖学教室」になった。最初はD棟の5階に研究室があったし、今は綺麗に分かれているけど、当時は研究室も学科ごとに棟や階が分かれていなくてごちゃごちゃだった。

—2006年に今の「動物遺伝育種学教室」となるまで、結構時間がかかったんですね。

そう、1976年からの念願だね。—お勤めされて約40年。一番印象に残っていることは何でしょう？

一番は毎月1回、茨城県の茎崎町(現つくば市)の農場に乳牛のデータを採取しに行っていたことかな。そこにはホルスタインとブリティッシュフリージアンがいたから、日本の酪農に適した種を考えようということだね。私が学部3年生の時から助手の頃までしばらく行っていました。でも色々あってその農場は乳牛を飼うことをやめちゃって、富士アニマルファームでデータ採取をすることになった。

—ニュージーランド留学はどうでしたか？

まず小澤先生が先に留学に行っていたんだけど、小澤先生の紹介もあって、酪農専門の先生について、ゼミに出たりしていました。ちょうど50歳前までに留学しないと補助金が出ないから、ギリギリで旅立った。日本とは全然違って、酪農は「牛が食べる草があるかないか」なんですよ。草がなくなれば乳を搾るのをやめる。牛舎もないし。日本とは全然規模が違ったね。

—第3位には「研究室でのくん製作」を挙げていますが…？

学生の時は鶏の研究はしていなかったし携わってなかったので助手になってからなんだけど、当時実習で残ったブロイラー(鶏)で「くん製作やろうか!」ということになって。今ではとんでもないけど、学内のサクラの木をちょっと拝借して…

—チップとして使ったんですね(笑)

くん製作に使わせてもらいました(笑) 2000年頃までの約20年間、やっていたかな。孵卵器で孵化させて育てて、と殺・解体をやって、肉量がどのくらい取れたかという実習をやっていた。多少多めに育てるから、それをクリスマスに合わせて…

—今では考えられないですけど、当時はきっと楽しかったでしょうね! 定年退職

後は何をされますか？

4月以降は何も決まってないから、体と頭の運動を心がけて生活したいと思っています。

—ありがとうございました!



【略歴】
 1979年3月(24歳) 日本獣医畜産大学獣医畜産学部畜産学 卒業
 1981年3月(26歳) 日本獣医畜産大学大学院獣医学研究科 修了
 1981年4月(26歳) 日本獣医畜産大学獣医畜産学部畜産学 家畜管理・育種学教室 助手
 1990年4月(35歳) 日本獣医畜産大学獣医畜産学部畜産学 家畜管理・育種学教室 講師
 1993年4月(38歳) 日本獣医畜産大学獣医畜産学部畜産学 家畜育種・繁殖学教室 講師
 2004年7月(50歳) マッセイ大学動物科学科に留学(1年間)
 2006年4月(51歳) 日本獣医生命科学大学応用生命科学部動物科学科 動物遺伝育種学教室 講師
 2011年4月(56歳) 日本獣医生命科学大学応用生命科学部動物科学科 動物遺伝育種学教室 准教授
 2018年4月(63歳) 日本獣医生命科学大学応用生命科学部動物科学科 動物遺伝育種学教室 教授
 2020年3月(65歳) 定年退職

吉田 達行 Tatsuyuki YOSHIDA
 応用生命科学部動物科学科 動物遺伝育種学教室 教授

—先生は本学ご卒業後、一度農業高校にお勤めになられ、1985年に助手として本学に着任されました。一番の思い出はなんですか？

クイーンズランド大学(オーストラリア)から「教育文化交流賞」をいただいたことです。1987年に学会で初めて訪れて以降、研究者と連絡を取り合い、交流を深めることになりました。当時の海外研修の訪問先としてクイーンズランド大学の支援を受けました。現在のオーストラリア・スタディー・ツアーが開催されるようになってからもクイーンズランド大学には支援していただいています。これらの長年に渡る関係が評価され、「教育文化交流賞」をいただきました。

—先生は動物科学科の学芸員課程を創出されたんですね。

当時の動物科学科は、動物園や水族館就職希望者が増えていました。施設側からは「飼育だけでなく、これからは展示普及ができる人材を」と言われ、動物科学科でも学芸員国家資格が取得できるよう尽力しました。とはいえ私自身、学芸員の資格を持っていませんでしたから、「50の手習い」として資格取得を目指して京都造形芸術大学の通信講座で1年間習いました。

—大学での講義や研究の傍らの資格取得は大変でしたね。

特に毎月の課題テーマへの対応と評価はかなり厳しかったです。無事に資格を得て大学に報告したところ、すでに獣医保健看護学科に学芸員課程が設置されていることを知り、動物科学科と合同で開講することをお願いし、スタートしました。開講2年目には学内に寄贈された絵画作品を資料として特別に企画展示を開催したのですが、その中の1作品「平和への祈り」は、その後、東京大空襲での犠牲者への鎮魂、などの平和活動としても注目されています。

—思い出第3位には牧場実習での出来事を挙げられています。

付属牧場が山梨県富士ヶ嶺地域に移転したことを機に、学科内で実施されていた牧場実習の内容に乘馬を取り入れ、家畜の飼養管理、搾乳作業などを体系化させ

ました。また、移転したことで草地研究を行えるようになり、卒業研究も実施できるようになりました。

—定年退職後のご予定を教えてください。

体力が許せば、アジア地域の農業を利用して生活を豊かにしたいとする人々と交流を続け、「土・草・家畜・生活」を支援していきたいと考えています。

—最後にメッセージをお願いします。

教職員の皆様をはじめ、多くの学生諸氏と出会い、語る事ができ、豊かな生活を送ることができました。ここに感謝し、お礼申し上げます。

—ありがとうございました！

思い出 BEST3



クイーンズランド大学より「教育文化交流賞」を受賞。



学芸員資格取得時の仲間と。



富士アニマルファームで卒業研究を行った第1期生たち。



時田 昇臣 Norio TOKITA
 応用生命科学部動物科学科
 動物栄養学教室 准教授

【略歴】
 1979年 3月(22歳) 日本獣医畜産大学獣医畜産学部畜産学科 卒業
 1981年 3月(24歳) 岐阜大学大学院農学研究科修士課程修了
 1981年 4月(22歳) 岐阜県立大垣農業高等学校
 1985年 3月(28歳) 九州大学大学院農学研究科博士課程単位修得退学
 1985年 4月(28歳) 日本獣医畜産大学助手
 1987年 7月(31歳) 国際(海外)学会に参加(以降、講演・発表12回)
 1990年10月(34歳) 日本獣医畜産大学講師
 1994年 8月(38歳) 海外実習引率(以降、16回)
 1999年 5月(43歳) 日本愛玩動物協会より「運営貢献賞」受賞
 2001年 4月(44歳) 麻布大学獣医学部非常勤講師
 2004年 4月(47歳) 日本盲導犬協会訓練士学校非常勤講師
 2004年10月(48歳) 東京農工大学大学院受託研究員
 2009年 3月(53歳) 学芸員資格取得
 2010年 4月(53歳) 日本獣医生命科学大学准教授
 2018年 9月(62歳) 豪州国立クイーンズランド大学より「教育文化交流賞」受賞
 2019年 5月(63歳) 桐生大学看護学部非常勤講師
 2020年 3月(63歳) 定年退職

Congratulations on the award

各賞受賞者をご紹介。受賞者の皆様、おめでとうございます！

学長賞

在学期間を通じて学業成績が特に優秀で、かつ人物にも優れた者、各学科1名に与えられます。

- | | | | |
|---------|----------|------------|---------|
| 👑 獣医学科 | 上玉利 成美さん | 👑 獣医保健看護学科 | 丸山 夢翔さん |
| 👑 動物科学科 | 杉浦 麻世さん | 👑 食品科学科 | 根本 香穂さん |

同窓会長賞

同窓会より、各学科の専門性を活かした分野に進み、かつ、成績も優秀で、後進の模範となった者に与えられます。

- | | | | |
|---------|---------|------------|----------|
| 👑 獣医学科 | 木田 萌子さん | 👑 獣医保健看護学科 | 岩本 杏さん |
| 👑 動物科学科 | 竹口 潤さん | 👑 食品科学科 | 甲斐野 仁美さん |

公益社団法人日本獣医師会褒賞

公益社団法人日本獣医師会より、獣医学教育振興の一助として獣医学系大学獣医学科を優秀な成績で卒業する者に与えられます。

- | | |
|--------|---------|
| 👑 獣医学科 | 小島 佳帆さん |
|--------|---------|

公益社団法人日本畜産学会褒賞

公益社団法人日本畜産学会より、在学中の学業に優れ、学部卒業後に大学院に進学し、畜産学会および畜産分野での活躍が期待される学生に与えられます。

- | | |
|---------|---------|
| 👑 動物科学科 | 稲穂 太一さん |
|---------|---------|

櫂賞

課外活動及び学術・研究活動、あるいはボランティア活動において、特に優れた成果もしくは、社会の模範となるような行為を行った個人または団体に与えられます。

- | | | | |
|----------------------------------------------------------|---------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 👑 獣医保健看護学科 | 植村 光希さん | 👑 馬術部 | 主管校として「第63回三獣医大学馬術大会」を成功裏に導きました。また、「全日本学生馬術大会 障害飛越競技 個人三位入賞」など、大会の運営・競技面と多岐にわたる場面で活躍し、輝かしい功績を収めました。 |
| 「日本獣医学会」をはじめとした学会発表、研究雑誌における論文投稿など、研究活動において輝かしい功績を収めました。 | | | |

学長賞受賞者に4つの質問

Q. おすすめの勉強方法は？

自分のメモをひたすら読む！



Q. あなたが思うニチジュウらしさ

動物マニアが多い！優しい人が多い！とても穏やか！



Q. 学生生活で一番楽しかったことは？

研究室で友人と他愛もない会話をしている時間！



Q. 一番力を注いだことは？

食品工学教室での実験です♡

旅立つあなたへ…

贈る言葉

ご卒業おめでとうございます。これから社会に出る皆さんへ、担任の先生からの言葉を贈ります。

この大学で
出合った人、留ったことは
いつか、どこか、思わぬ所で
きっと役に立つでしょう。
日獣大での楽しい思い出も
つらい思い出も
大切にしてください。
吉田 亮

立派な社会人
になって下さい。
私 平 浩 敬

「できなかったら」は考えない。
「できる」と、まず決めてしましましょう。
石岡 亮 己

ご卒業おめでとうございます。大学4年間の勉強をはじめ、
部活や社会活動など、本当にお疲れ様です。学期中、
人それぞれに苦労や困難があったと思いますが、目の前にある壁を
乗り越えた努力は、きっと自信につながったと思います。今後は、社会人として
働く人といえど、大学院に進学する人といえど、各々新たな目標を
立て、努力していくことだと思います。今後は、学生生活で得た友人や、
困難を乗り越えた自信が支えとなります。今後のご活躍を期待して
おります。身体に気をつけて頑張ってください。 山本 俊 昭

仕事を頑張った
ら
人生が充実し
ますように！
濱部 浩一

皆さんは私も最初は初任、初任
卒業指導を担当して学年でした。洋玉の北海道
セミナーでは、まさかの大地震を経験し、水や
電気、暖房の食事があかたまり身にしみて
感じる事ができました。皆さんといっしょに初任の
経験とこれとを私に一生忘れることになり、
これから社会に羽ばたく人、進学してさらに
力を蓄える人、進む道は様々ですが、大学を
離れた同じ時を同じ場所で過ごす仲間
は、いろいろなところで力になってくれるはずで
す。ここで得た知識、経験、友情を大切に、
今後の人生を豊かなものにしてください。
戸塚 護

ご卒業おめでとうございます。
たくさんのお力を貸す人として
活躍されることを期待しています。

田島 剛

ご卒業おめでとうございます。
アタタ達の素行で2年間 苦労が絶えませんでした。
社会に出てからの奮闘 期待しています。

牛島 仁



田島講師

松本准教授

獣医学科



山本准教授

石岡教授

獣医保健看護学科



牛島教授

濱部教授

動物科学科



戸塚教授

吉田教授

食品科学科

nichinstagram

#また逢う日まで

Related Hashtags: #卒業生の皆さま #ご卒業おめでとうございます #素晴らしい未来になりますように
#20200312

 milk_and_meat_laboratory



   #乳肉利用学教室 #恒例の牛さんポーズ
#金子さんと4年生の先輩方へ
#有り難うございました!

ご卒業おめでとうございます!!
これから先も素敵な人生になりますように!

 f-eisei



   #食品衛生学教室 #追いコン
#4年生
#おめでとうございます!

ご卒業おめでとうございます!!
4年生と過ごした日々、とても楽しかったです!

 Laboratory of Animal Physiology



   #動物生理制御学教室
#對馬宣道先生
#お疲れさまでした

長い間お疲れ様でした。学生を第一に考える先生の姿勢を継いでいきます。お身体を大切に、新しい人生をお楽しみください。

 jim_u_nvlu



   #事務部 #入試課
#トクサン #門出 #チョコもらった

長い間お疲れさまでした!多岐にわたりサポートいただきありがとうございます。これからのご多幸をお祈りします!

Vol.71 表紙絵

大脇理子さん
(獣医保健看護学科2年次)

絵を描くにあたって、先輩方に「大学といえは?」と尋ねたところ、「モーモーベンチ」と答えが返ってきました!卒業式らしく、桜も入れてみました。

Hello, we are NVLU(ニチジュウ) -日本獣医生命科学大学報- 第70号(2020年3月号) 2020年3月12日発行

(以下敬称略) 協力/学生:上玉利成美 丸山夢翔 杉浦麻世 根本香穂

教職員:河上栄一 植田富貴子 左向敏紀 吉田達行 時田昇臣 松本浩毅 田島剛 石岡克己 山本俊昭 牛島仁 濱部浩一 戸塚護 吉田充

Special Thanks:渡邊直哉 その他協力いただいた皆様ありがとうございました!

表紙/大脇理子

編集・発行/日本獣医生命科学大学 IR推進委員会(編集委員)羽山伸一 近江俊徳 野瀬出 知久和寛 高橋勝 大沼友美 服部沙由花 上野美可子

印刷/相互ビジネスフォーム株式会社